

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.49

2009.9.4

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019 - 684 - 2225

FAX019 - 684 - 2227

非核平和を実現させるために

核兵器をなくし 戦争のない平和な社会を次の世代に送りたい

岩手県原爆被害者団体協議会 事務局長 三田 健二郎さん

今年になって、我々被爆者はやっと一筋の光明を見いだした気がしています。



この4月、チェコのプラハにおいて、オバマ米大統領が「核兵器のない世界」を目指すと明言したことです。また、ロシアと戦略兵器削減条約(START)の交渉を再開し、国際的に核実験をすべて禁止する「包括的核実験禁止条約」(CTBT)の批准を進め、高濃度ウランやプルトニウム²³⁹の生産を禁止する条約の締結に努めるなどの具体的筋道を示しました。そして、我々が大きく勇気づけられたのは、「核兵器を使用した唯一の核保有国として行動する道義的責任がある」と発言したことです。

これに引きかえて、わが国政府はその後のロンドン・サミットにおいて、また広島・長崎での平和祈念式典においても、唯一の被爆国であるにもかかわらず、これにかかわって何の意思表示もしていません。強い失望と共に、日本は更に国際的信用を失墜したのではないかと危惧しています。

原爆症認定訴訟が次々と原告勝訴となる中で、政府もここへ来てやっと訴訟分については認定する方針を打ち出しました。一定の評価はできるものの、具体的にはこれからです。そして、訴訟にまで持ち込めないケースも多くあり、被爆に起因すると思われる症例すべての認定は今後^に持ち越されました。

国際的に核兵器を完全に廃棄するには、核の国際管理をはじめ多くの課題が横たわっているようです。しかし、この全面廃絶への流れを決して止めないように国家間の相互理解を更に深める努力を続けなければなりません。そして、このリーダーシップを執るのは、何と云ってもわが日本国であるべきだと思います。これは一党一派や特定勢力によらない総力を結集すべきものと考えます。

我々被爆者の願いは、国の全面的な謝罪と補償を要求することもさることながら、全世界から核兵器を無くし、戦争の無い平和な社会を実現し、これを次の世代に送ることです。

- 我々が生あるうちに確かなこの方向性を見極めたい -
この一心です。

岩手県原爆被害者団体協議会では原爆投下の日にあわせ「原爆パネルと人間展」を開催し(右写真) その中で被爆体験を語る時間も設けています。

今年も県公会堂にて8月6・7日に行い、多くの高校生・大学生ボランティアが設営や受付などを手伝いました。



時間が前回と違います。ご注意ください！

今月の署名行動

9月の「岩手の会」街頭宣伝行動は、9日(水) 11:30~12:15大通り・野村証券向いにて行います

盛岡で岩手平和美術展開催

いわてローカルユニオン結成10周年記念・平和へのメッセージ



「09 第24回岩手平和美術展」(縣二三男実行委員長)が8月5日~9日まで盛岡市民文化ホール・マリオス展示室で開催されました。

美術展は、「世界に平和を!」「核兵器の廃絶を!」のスローガンを高く掲げて行われ「平和の思いをこめた作品」が県内124人の愛好家から絵画や写真など239点が出展されました。広島・長崎に原爆が投下されて今年で64年、「あの悲劇を繰り返すな」という被爆者の叫びは、「ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ」の核兵器廃絶を求める声となり、世界中を駆け巡っています。今年の4月、オバマ大統領がプラハの演説で「アメリカは核兵器のない平和で安全な世界を追求していくことを明確に宣言する」と述べ、「今こそ、核兵器廃絶を!」の世界的な気運が高まりつつあるもとで開催された美術展でもありました。

会場には、公募展示作品はじめ、岩手県原爆被害者団体協議会(岩手被団協)の協力で原爆写真が展示された他、「被爆体験を語る会」の開催や岩手県地域労働組合(いわてローカルユニオン)が結成10年を迎えた記念に「平和コーナー」を設けて平和へのメッセージとして、組合員・家族による作品を展示しました。

平和へのメッセージというテーマでは、キューバの子供たちの写真や平和の歌「赦しの花あさがおの花」のCD、「機関銃を探しに来た男」の小説が目をはききました。コーナーでは世相を反映して、困ったときの駆け込み寺としての労働相談センターのチラシやローカルユニオンを紹介するリーフレットやチラシも置かれ、市民にアピールしていました。

(いわて労連副議長・前いわてローカルユニオン執行委員長 工藤和雄さん)



平和のつどい in 盛岡

8月9日(日)いわて生協

いわて生協組合員の実行委員会が主催し、高松の池「平和祈念像・望み」前で「平和のつどい」を開催しました。これは終戦50年の1995年から毎年行っています。

今年のつどいは、折鶴で平和メッセージアート、原爆パネル展示、平和の歌、紙芝居などに親子連れや高校生100人が参加。長崎に原爆が投下された11時2分、教会の鐘の音を聞きみんなで黙祷し、平和への思いをあらたにしました。



ピースアクション In ヒロシマ参加者が報告しました。

ピース in 矢巾 夢・まつり

8月6日(木)矢巾九条の会

3年前からこの日に、平和と地球の環境問題を考えようと、親子で「夢・まつり」を開催。

今年は「こうすればできる、電気量の節約とCO2削減」(県企業局経営企画課長の中屋敷さん)と、「考えてみよう 世界の子どものこと」(ユニセフ活動に取り組む親子のみなさん)の2つのお話を聞きました。旧南部曲がり家の徳丹城跡公園を会場に、庭で夢灯りをともし、平和を祈りました。

